

価値創造のあゆみ～東芝のDNA～

東芝のルーツ

東芝のルーツは、「からくり儀右衛門」と呼ばれた田中久重と、「日本のエジソン」としてその名を知られた藤岡市助の遺伝子が結びついたことに始まります。

1873年(明治6年)に田中が創設した田中製作所(後の芝浦製作所)と、1890年(明治23年)に藤岡が創業した白熱舎、いずれ東芝となる2つの会社は、人びとのために、社会のために、ともに、これまでにないものを生み出そうと、日本の明るい未来を夢見たベンチャーでした。

人と、地球の、明日のために。

東芝グループは、「人と、地球の、明日のために。」を経営理念の主文に掲げ、創業時より、時代の変化の中で、常に社会課題を捉え、事業を通じて解決することを信条としています。

今、私たちは、一人ひとりの生活、そして地球が持続可能であるために責任を問われています。気候変動による自然災害によって、安心・安全な暮らしが脅かされています。情報格差などの不平等や資源枯渇の問題など、社会的そ

して環境的な安定性が損なわれています。

人と地球が持続可能であるために、東芝は、「カーボンニュートラル」と「サーキュラーエコノミー」の実現に貢献していきます。

具体的な取り組みとしては、一人ひとりの安心・安全な暮らしを守るために「誰もが享受できるインフラを構築すること、そして社会的・環境的な安定のために「繋がるデータ社会を構築する」ことです。

東芝は長年にわたり、電力や水処理、交通などの社会の重要インフラを支える事業に携わってきました。これらの事業を通じて培った知見・技術・お客様との繋がりは貴重な資産です。これらの資産をベースに、「データの力」を最大限に生かすことで、新しい価値を持続的に創造していきます。

140余年変わらない「世界をよりよい場所にしたい」という私たちの想い



1875 田中久重が東京に電信機の工場を創設



1930 日本初
電気洗濯機と電気冷蔵庫を完成、発表



1967 世界初
郵便物自動処理装置を完成



1989 世界初
超々臨界圧大容量蒸気タービンを開発



1991 世界初
4メガビット NAND型EEPROMを開発



2016 世界初
超伝導電磁石を採用した重粒子線回転ガントリー 協力：QST/iQMS



2017 世界初
実用型マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダを開発



2021 世界No.1
量子暗号通信 世界最長*1 600km以上の通信距離を実証



2021 世界No.1
世界最高*2のエネルギー変換効率 フィルム型ペロブスカイト太陽電池



2021 日本No.1
メガソーラー設置シェア



田中久重

田中製作所
芝浦製作所

1939 東京芝浦電気



藤岡市助

東京電気
白熱舎



1978 日本初
日本語ワードプロセッサを開発



1985 世界初
ラップトップPCを開発、販売を開始

1984 東芝に社名変更



2007 世界初
320列エリアディテクター CTスキャナを開発



2020 日本初
福岡県大牟田でCO₂分離回収実証設備運転開始*3



2020 世界有数
世界有数規模の水素製造設備 (福島水素エネルギー研究フィールド：FH2R) ※NEDO事業

※1 2020年6月当社調べ
※2 プラスチック基板で構成される受光部サイズ100cm²以上のフィルム型ペロブスカイト太陽電池モジュールにおいて、当社調べ(2021年9月10日現在)
※3 火力発電所から排出されるCO₂の50%以上を回収することができる設備として日本初

新しい未来を始動させる東芝の技術

創業～	1960年代～	1970年代～	1980年代～	2010年代～	2020年代～
<p>1930年、東芝は初めて電気洗濯機を販売、そして電気冷蔵庫を完成しました。また、1955年には日本で初めて自動式電気釜を発売しました。</p> <p>多くの女性が主婦という仕事に縛られていた時代、これらの製品により、女性は自由な時間を手に入れることができました。</p>	<p>1967年に完成した郵便物自動処理装置は、世界初の手書き文字認識により手作業を機械化し、高度情報化社会における省力化機器の先駆けとなりました。</p> <p>同時に、光学文字読取技術(OCR)や自動改札機、さらに最先端画像認識技術の普及に繋がっていきます。また、1960年代初頭から開始した超電導物質の研究は、重粒子線がん治療装置として次世代の医療の技術に繋がっています。</p>	<p>1978年には、東芝は日本初の実用的な仮名漢字変換システムを完成させ、日本初の日本語ワードプロセッサを発表しました。</p> <p>かな漢字変換技術と大容量ストレージの開発が、人びとが町に音楽を持ち出したり、今や当たり前となったメールやSNSという通信手段の発展に繋がっていったのです。</p>	<p>1985年、東芝は、世界初のラップトップコンピュータを、1991年、世界初のNAND型フラッシュメモリを製品化。ネット社会の礎を築きました。</p>	<p>2017年には、世界初の実用型マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダを開発しました。</p> <p>ゲリラ豪雨は、局地的に、しかも急速に発達する積乱雲によって引き起こされるため、これまで予測が難しいとされてきましたが、マルチパラメータ・フェーズドアレイ気象レーダにより、ゲリラ豪雨の兆候とその雨量を迅速かつ高い精度で予測することができるようになりました。</p>	<p>また、2021年には、世界最大サイズ、世界最大の発電効率であるフィルム型ペロブスカイト太陽電池を開発しました。今まで設置が困難と考えられていたビルやマンションの壁面、大型車両の上面など広い土地を確保することが難しい都市部でも設置することが可能になります。</p> <p>「人びとの夢をかなえ、社会を変える商品・サービスを、自分たちが最初にお届けしたい。」このような情熱から東芝の製品やサービスは生まれてきました。</p> <p>東芝の技術は、人びとの生き方を変え、社会をも変えてきたのです。</p>

07 | 東芝 統合報告書 2023

東芝 統合報告書 2023 | 08